2015 年 10 月 14 日放送

頻用処方解説　温経湯②

九州大学病院　総合診療科　　迎　はる
（2016 年より 九州総合診療クリニック）

１．現代における用い方

ガイドラインに記載されている温経湯の使用法はありませんが、『医中誌 Web』（国内医学文献情報データベース）では、月経周期異常症、不妊症、月経困難症、更年期症候群、産後や更年期の不安・抑うつ症状、それにシェーグレン症候群のドライマウスやアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患に関する報告が多くあります。

２．EBM

これまでの研究から、温経湯は視床下部へ作用してゴナドトロピン放出ホルモンの分泌を促進し、下垂体性ゴナドトロピンである卵胞刺激ホルモン(FSH)や黄体化ホルモン(LH)の分泌量上昇やその律動性分泌を促すことが分かっています。その結果、卵巣における女性ホルモンであるエストラジオールの分泌を促進し、卵胞の成熟、排卵の回復、黄体機能の向上などの作用を現します。また温経湯は、下垂体からの LH 分泌が低い例では、FSH、LH、エストラジオールの分泌を促進させ、多嚢胞卵巣を含む LH の高い例では、LH 分泌を抑制し、エストラジオール分泌を促進させて、ホルモンを調整します。

多嚢胞卵巣における排卵障害に対して温経湯の効果と証の検討を行った研究では、下腹部が冷える、瘀血所見を有する、手掌煩熱がある、口唇が乾燥傾向である、３ヵ月以上無月経の５項目すべてを満たす者を温経湯証として、非温経湯証とともに温経湯エキスを 12 週間投与したところ、LH 低下率は温経湯証群で有意に高値でしたが、排卵率は両群とも 80%以上と高値であり、多嚢胞卵巣における排卵障害に対しては、証に関わらず温経湯を

投与しても良いと考えられます。

非妊娠ラット摘出子宮筋標本による実験では、芍薬甘草湯、当帰芍薬散、温経湯のエキスはプロスタグランジン F2α誘発による子宮筋収縮の頻度や収縮強度を抑制しており、温経湯は月経不順だけでなく月経痛にも有効なことが示されています。月経不順患者 18 例と月経困難症患者 18 例に温経湯エキスを投与した研究では、改善例はそれぞれ 13 例(72.2%)と 16 例（88.9%）に認め有効でした。また効果自覚までの平均期間は約３ヵ月と比較的長いため、臨床の場では少なくとも３ヵ月間投与してから効果を判定すると良いと思われます。

婦人科疾患に用いられる漢方薬がエストロゲン様活性を有することが報告されていますが、温経湯もエストロゲン受容体βに対してアンタゴニスト作用を有することが報告されています。また、卵巣摘出ラットに温経湯を投与した実験では、子宮湿重量や子宮内膜厚の増加を伴わずにエストロゲン減少による骨塩減少を抑制する作用が認められており、選択的エストロゲン受容体モジュレーター様作用を持つことが示唆され、興味深く思われます。

温経湯がラットの下垂体濾胞星状細胞から中枢神経系ケモカインである CINC（cytokine-induced neutrophil chemoattractant）分泌を促進することが報告されており、温経湯が CRH（corticotrophin releasing hormone）によるストレス惹起作用に桔抗して抗うつ効果を発揮する機序として推察されています。実際に、ホルモン捕充療法で寛解の得られない抑うつ症状を伴う更年期症候群の女性 24 例を対象にした、温経湯と当帰芍薬散のクロスオーバー試験では、温経湯併用群において、抑うつや不安が優位に改善されており、温経湯が抑うつ症状を伴う更年期症候群に対する補助療法として有効であることが示されています。

３．処方適用のポイント

温経湯は太陰病に属し、虚証のもので、腹力中等度かそれ以下の者に幅広く使えます。浅田宗伯（1815-1894）の『勿誤薬室方函口訣』には、のぼせ、冷え、頭痛、唇口乾燥、手掌煩熱を目標とし、腹部に瘀血塊がないものが適証とあります。瘀血塊は少しある分にはいいですが、しっかりと触れるものは桂枝茯苓丸や挑核承気湯などの駆瘀血作用が強い方剤の方が適しています。

下腹部が他覚的に冷えている人や、原典の『金匱要略』に「小腹裏急し、腹満し」とあるように、下腹部がひきつれ、腹が張る気うつ傾向の人に有効です。大塚敬節（1900-1980）は、温経湯を用いる際の一番大切な目標に、手のひらが灼けることを挙げており、温経湯証を疑った場合は、手のほてりについて、こちらから積極的に聞くのがよいと教えています。唇が乾くかどうかは見ればわかりますが、化粧によって分かりづらい場合もありますので、それも問診する方がよいでしょう。ただし、温経湯が有効だった 45 例を解析した太田の検討では、各症状を有する割合は、冷え 73.3%、口唇乾燥 70.6%、下腹痛 58.8%、手掌のほてり 47.1%であり、手掌のほてりよりも冷えや口唇乾燥症状が高率に認められています。また舌診では、乾燥 84.4%、暗赤色 60.0%、瘀血 51.1%、歯痕 40.0%と、虚熱による

乾燥舌や暗赤舌が多く認められたことも参考になると思われます。
その他の使用例として、「唇口乾燥す」という条文から、シェーグレン症候群などのドライマウスに温経湯を用いて有効だった報告があります。ドライマウスの治療には麦門冬湯が有名ですが、温経湯も麦門冬や人参を含み、阿膠と協調して粘膜を潤す作用があり有効と思われます。

また、「手掌煩熱」を目標にして、手湿疹やアトピー性皮膚炎に温経湯を用いることがあります。顔や手を中心とする赤みのある乾燥傾向の皮疹で、月経周期に合わせて悪化する場合に適応となります。女性ホルモンの減少が発症に関与するといわれ、産後や更年期にしばしば見られる、ばね
指に対して温経湯が有効だった報告もあり、手の火照りや口唇乾燥がなくても、ばね指を手の炎症、火照りと考えて温経湯を投与しても良いと思われます。

最後に、エキス剤の効能に不眠や神経症がありますが、温経湯は「血の道症」とされる女性の月経や出産に関連する精神症状によく用いられます。EBM の項目でも触れましたが、温経湯には女性ホルモンの調整作用のほかに、抗ストレス作用があるため、産後や月経前に悪化する抑うつ症状や、精神症状を呈する更年期障害の方で、冷えがあり、上半身の熱感がある場合に使用するとよいと思われます。

４．類方鑑別

類方鑑別として、更年期に用いることの多い桂枝茯苓丸、比較的体力の低下した冷え症の人に用いる当帰芍薬散、当帰四逆加呉茱萸生姜湯があります。桂枝茯苓丸は、虚実間から実証に用いる方剤で臍傍の圧痛が明らかで、瘀血が原因の疾患に幅広く用いることができます。当帰芍薬散は、血虚の症候は共通していますが、水毒があり軽度の浮腫を伴う点で、口唇が乾燥する温経湯と鑑別します。当帰四逆加呉茱萸生姜陽は、四肢の冷えが顕著で腹痛や頭痛など寒冷刺激によって誘発される種々の疼痛性疾患に用います。また、手足のほてりに用いる処方に三物黄芩湯があります。こちらは体力中等度かそれ以上の人に用いる方剤で、冷えや血虚の症候は明らかではありません。

５．自験例の紹介

症例は 32 歳の女性で、主訴は冷えと倦怠感です。1 年半前に第 1 子を出産し、半年前に育児休業から復帰しましたが、仕事が忙しく疲れやすさを自覚して受診しました。また、第 2 子の挙児希望もありました。冬は足が冷えるため靴下を履いて寝ますが、口唇はやや乾燥し、手が火照ることがありました。月経は第 1 子出産後に順調となりましたが、排卵痛があり、月経前に吐気がありました。脈は虚実間で腹力は中等度、臍傍の圧痛はなく、舌に腫大や歯痕は認めませんでした。

温経湯エキス 7.5g 分 3/日で開始したところ、3 週間後の診察では、冷えの改善を認め、排卵痛を認めませんでした。また手の乾燥が改善し、倦怠感も良いとのことで現在処方を継続し経過を観察しています。